

## 7 当院泌尿器科における 9 年間の

### 漢方製剤の処方実態

順天堂大学医学部附属浦安病院 泌尿器科

石川 圭祐、佐野 優貴、安野 雄太、谷口 歩、  
呉 彰眞、上阪 裕香、野崎 大司、白井 雅人、  
辻村 晃

#### 【背景】

泌尿器科領域においては排尿障害、過活動膀胱、下部尿路不定愁訴、尿管結石、尿道狭窄、男性更年期障害、男性不妊症、勃起機能不全症や抗がん剤による副作用対策など多岐にわたり漢方製剤の処方を行うことも少なくないが、実臨床においてどのような処方  
がなされているか漢方製剤の処方実態を分析した報告は非常に少ない。当院では9名の泌尿器科常勤医師、5名の非常勤医師が外来、入院診療にあたっており、今回我々は過去9年間という長期間での当院での漢方製剤の処方実態を調査した。

#### 【方法】

2015年1月～2023年10月で当院泌尿器科(外来、入院)において漢方製剤を使用した患者を対象としてどのような漢方が処方されていたのか集計し、年度別、処方別に使用状況を検討した。

#### 【結果】

過去9年間の平均処方数/年は348人(2015年469人、2016年352人、2017年426人、2018年377人、2019年340人、2020年297人、2021年339人、2022年282人、2023年251人)であった。処方別にみると過去9年間では補中益気湯が最多で平均処方数/年は90人/年、牛車腎気丸と補中益気湯が36人/年、猪苓湯が32人/年、芍薬甘草湯が20人/年、清心蓮子飲が20人/年、八味地黄丸が14人/年、桂枝茯苓丸が13人/年、十全大補湯が9人/年、柴胡加竜骨牡蛎湯が8人/年、柴苓湯が7人/年、六君子湯が6人/年の順であった。その他には実に26種類もの漢方薬が処方されていた。

#### 【考察】

過去9年間の当院における漢方製剤の最多処方は大建中湯であり、当院では周術期に術後のイレウスや排便異常の改善・発症予防目的に使用しており、それを反映した結果であると考えた。平均処方数/年では排尿障害や過活動膀胱、下部尿路不定愁訴等に使用される漢方製剤(牛車腎気丸、猪苓湯、清心蓮子飲・八味地黄丸)が続いた。また精索静脈瘤で使用される桂枝茯苓丸は2016年以降処方が増加傾向となり、2022年以降は減少している。これまでは精索静脈瘤に対して漢方等で経過を見ていた患者が、手術が保険適応になったこと、また近年男性不妊症が注目を増す中で手術を希望される患者が増加した可能性があることが示唆された。

当院泌尿器科では漢方製剤は安定して処方されており、日常診療において非常に有用であることを改めて示した。